

# 第十一期（2022年度）事業報告書

（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

法人の名称 特定非営利活動法人 アーモンドコミュニティネットワーク

多様な個性・文化・価値観を持つ人々が生きるコミュニティの中には人と人を隔てる様々な問題があります。隔ての中垣を越えてところを支え合い健やかに共に生きるために、「相手の話をより良く聴くこと」「傾聴」を土台とする人間関係をつくり、市民が孤立することのない共生の社会と平和なコミュニティの実現に寄与することを目的に活動をしています。（定款より）

法人ホームページ <https://npoacn.or.jp/>



## <事業の成果>

傾聴と対話を軸とする法人の活動がさらに発展する一年でした。

前期の受益者総数 2,794 名から、第 11 期は 65.2 % 増加の 4,616 名へと拡大しました。コロナ禍で増え続ける不登校児童・生徒への支援と子どもの貧困・子どもの権利擁護問題とひとり親家庭への支援の充実が活動の中で求められ、法人は成果を達成しました。

増大する不登校児童・生徒が利用できる居場所を身近な場所につくる必要を痛感し、協働する区役所こども家庭支援課、北部学校教育事務所スクールソーシャルワーカー、北部地域療育センターと民生委員・主任児童委員との対話ミーティングを積み重ね、誰もが地域で安心して暮らせる身近な福祉保健の拠点である横浜市独自の施設の「地域ケアプラザ」の部屋を借りて、新しく「課題を抱える子どものための地域の居場所づくり」を推進していくためのこれからの流れができました。

定期的な「対話ミーティング」Dialogical Meetings in Social Networks を支援者同士が持つことで、より良い組織連携と支援方法を作っていくことができます。法人の傾聴ワーカーの参加と行政と地域の大学や企業からの協力もあり新たな活動を推進していきます。

コロナを経て ICT を活用する学習支援の充実が求められています。2015 年に私たちは NPO 法人 eboard と、総務省 ICT ドリームスクール学習支援実践モデルづくり事業に子どもの貧困と教育課題に取り組む団体として参加しましたが、今後「課題を抱える子どものための地域の居場所づくり」での学習支援には、ICT 教材 eboard の活用を進めていきます。

コロナ禍により変化した従来の生活様式と異なるオンラインでの学校活動や社会活動から、家庭生活にも引き続き大きな影響が見られました。これまで登校に問題のなかった子どもに不登校の問題が起きるケースが見られ、相談件数が過去最多であった神奈川県教育委員会と横浜市教育委員会が開催する「不登校相談会」では、法人は今年度もフリースクールとして相談を担当しました。

## <「傾聴と対話実践」事業の成果>

「対話のこぼれ実践セミナー」を通年事業として、「傾聴研修」と合わせて年間 28 回 349 名が北山田法人拠点での対話実践研修（オープンダイアログ）に参加しました。

<外部組織より依頼された講演会・セミナー・研修の増加>

- ・都筑区役所 人権啓発研修グループ、「人権啓発指導者研修」、テーマ「子どもの人権」
- ・横浜美術館、「美術館ボランティア研修」、テーマ「傾聴による関わりづくり」、全2回
- ・横浜市政策局、「よこはま共創博覧会 2022」、「都筑リビングラボ」  
テーマ「傾聴と対話のワークショップ」を担当
- ・にしとも西区区民活動支援センター、「傾聴とオープンダイアログ」傾聴講座（基礎編プラス）（活動に役立つ知っておきたいシリーズ）
- ・認定NPO法人こまちぶらす、テーマ「傾聴」を軸に安心の居場所(コミュニティ)を地域につくる!!」2回（全3回の内）
- ・横浜市教育委員会北部学校教育事務所、「研修生研修」、テーマ「子どもの貧困と不登校」
- ・つづき MY プラザ、「職員への傾聴と対話実践研修」、テーマ「Dialogical Practice とは」
- ・横浜都筑ロータリークラブ主催、定例会の卓話、  
テーマ「子どもの人権を考える～こども食堂・居場所活動での実践を通して～」
- ・YOU&ME 精神保健サロン、「サロン活動での傾聴ボランティア研修～輝きの海～」

<ダイアログ実践の新たな成果>



- ・フィンランド「民主主義を守るための建設的な対話イベント」に日本から参加  
**Sitra** 主催：  
(シトラ。フィンランド・イノベーション基金、フィンランド議会が管轄)

「Democracy Defence Dialogue」に、日本から組織として参加し「民主主義を守るための建設的な対話の実践」を北山田拠点において、傾聴学習者と支援職員で行いました。

私たちの対話の記録はフィンランドで出版された‘SITRA STUDIES 227’に掲載されました。  
‘What does democracy mean to you? How can we defend democracy in everyday life?’

<子育て支援事業の新たな成果>

「アーモンドこども食堂」を8月より再開し、ひとり親家庭の家族参加が増えました。

「アーモンドフードパントリー活動」は、公益社団法人フードバンクかながわと横浜市社会福祉協議会・都筑区社会福祉協議会との連携事業で2019年に開始し、法人のフリースペースの利用家庭を中心に毎月北山田で食品配布活動を行いました。

また、3月には厚生労働省「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業助成」事業を受けて、32世帯107名に840食の食支援を行うことができました。

<新たな展開を達成した事業>

法人のミッションとして、困難を抱える人が自分のことを安心して語れる「対話の集まり（ダイアロジカルミーティング）」を地域社会で開いて行くことを目的に、北欧で実践され効果をあげている対話支援」の手法「オープンダイアログ **Open Dialogue**」と「未来語りのダイアログ **Anticipation Dialogue**」を、北欧講師から学びながら、不登校・引きこもり等の課題を抱える子ども青少年支援に生かす試みを開始して4年目になりました。

対話の手法によって、地域ネットワークづくりを進め、令和5年4月から「不登校支援ネットワーク対話ミーティング」を、中川地域ケアプラザを会場に開始し、増大する不登校の小中学生への支援を「地域の居場所づくり事業」として開始しました。

子ども青少年と高齢者を対象とする都筑区内3拠点での「傾聴を土台とする」居場所支援・

生活支援・学習支援に携わるスタッフ（職員とボランティア）は23名になりました。

＜「Well-being（ウェルビーイング）社会」「コレクティブ・インパクト」実証実験＞  
一般財団法人デロイト トーマツ ウェルビーイング財団と株式会社公文教育研究会との「子どもの教育分野におけるコレクティブ・インパクト実証実験」に、傾聴とダイアログを土台とする子ども青少年支援事業（居場所支援、学習支援、相談支援）の実績がある団体として参加し協働しました。

人とひとの相互の信頼と共感に基づく「Well-being（ウェルビーイング）社会」の構築を目指すと共に複数の団体による協働を最大化させる「コレクティブ・インパクト」を通じた活動を推進する実証実験への参加は、法人の成長のステップとなりました。

＜アーモンドホープセンターの意味は「希望」（アーモンドの花言葉）を生み出す居場所!!＞

＜取材記事＞



・都筑区 NPO 法人情報誌「tsuzuki ANCHOR」第4号に掲載されました。  
地域課題に取り組む NPO として、団体の特徴、活動の様子、法人からのメッセージ等の取材を受けました。

- ・「たいせつじかん」コミュニティフェイザー（パルシステム神奈川運営）
- ・「スタッフ全員が傾聴ワーカー 心の声を話せる場所」

<https://www.taisetsujikan.com/place/?p=361> スタッフ取材→



「真冬に咲く復活の花”アーモンド”のように—【傾聴】を軸にした支援で  
生きづらさを抱える人を支える NPO 法人アーモンドコミュニティネットワーク」

<https://www.taisetsujikan.com/?p=2811> 理事長取材 ↓前編 ↓後編

<https://www.taisetsujikan.com/?p=2822>



## 特定非営利活動に係る事業

※事業開催日数と受益者数は最後の表に記載しています。

### (1) 子育て支援の推進等に関する事業

「アーモンドフードパントリー（食品食材提供）活動」

厚生労働省「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業助成」で、32世帯107人のひとり親家庭に840食の食品配布を行ないました。ひとり親家庭を支援する地域の民生委員・主任児童委員との連携が進み、困難を抱えるひとり親家庭の登録者数が増えました。

毎月の活動は、主にフリースペース利用者家庭を対象に、地域の農家、都筑区社会福祉協議会、横浜市社会福祉協議会、横浜労働者福祉協議会、都筑区役所と連携して活発に活動しました。また、(株)タカナシと寄贈品に関する合意書を交わし、同社の地元の店舗から定期的な食品の受取りを開始しました。地域住民と地元企業からの食品提供等もありました。物価高騰とコロナの影響で困窮するひとり親家庭からの相談が増大し、行政窓口への紹介や必要な専門機関につなぐ件数が増えました。

「アーモンドこども食堂」を8月より再開し9回の開催で190人の参加者がありました。

## (2) 青少年の健やかな成長の推進等に関する事業

### ア 「青少年支援 ‘ともにあ・る・く’ フリースペース事業」

傾聴によるこころの支援、居場所支援、学習支援、相談支援、キャリア支援等。安心できる環境と人間関係を作り、小中学生から青年期の社会的自立を応援しています。

横浜市北部4区を担当するスクールソーシャルワーカーと連携支援を行ないました。都筑区の全中学校の指導専任教諭とは密に連絡を取り合い、居場所を利用する不登校の中学生は在籍校で指導要録上出席扱いとなっています。

### イ 横浜市「都筑区寄り添い型生活支援事業 北山田 ‘いっしょに あ・る・く’」

都筑区在住の小中学生を対象に(1)日常生活習慣等を身に付けるための支援 (2)安心して過ごせる居場所の提供(3)学校の勉強の復習・宿題等の習慣づけ(4)基礎的な内容の学び直し支援を「傾聴支援」を土台に行っています。

・生活困窮者自立法に基づく都筑区区レベルセーフティネット会議（都筑福祉保健センター生活支援課）に関係機関として出席しました。また北部児童相談所主催の連携会議に関係機関として出席しました。地域の小中学校の専任教諭と北部学校教育事務所と基幹相談支援センターとは協働して支援を進めています。

・「横浜市こども青少年局 都筑区子ども家庭支援課」委託事業  
・障がい児世帯、ひとり親世帯、外国につながる世帯では経済・心理・健康面で大きな不安を抱える様子が見られ、子ども達が通う地域の小中学校・区役所・専門機関との日常的な連携を深め、子どもと親を支えるために、よりきめ細やかで迅速な対応が必要です。

### ウ 「都筑区 地域が支える子ども達の居場所づくり事業 川和 ‘いっしょに あ・る・く’」

「傾聴」を土台に少人数の家庭的な雰囲気の中で、子どもたちは学習に取り組み、支援者とアートクラフトやカードゲームで遊び、毎週決まった時間を「いっしょに」過ごすことで、子ども達の成長を地域の力で支えました。「都筑区子ども家庭支援課」委託事業。

### エ 不登校の子どもを抱える親のための活動

「親の集い&子どもの心を聴くための傾聴勉強会」を「不登校相談会」として、親の孤立を防ぐために、悩みを気軽に言葉にできる「場」を作り、コラージュワーク等を準備しました。個別相談では必要な情報提供や助言を行ないました。

・不登校支援団体として、神奈川県教育委員会主催、横浜市教育委員会協力の教育委員会とフリースクール等による「不登校相談会 6/11」では毎年個別相談を担当しています。

### オ 「生きづらさを抱えた子ども・青少年と家族のための相談事業」

20代から30代の青年の相談支援を充実させ、就労や人間関係の悩み等のキャリアカウンセリングを行いました。対面での相談以外に、電話、メール、オンライン面談等により、助言、他機関の紹介、情報提供等を行ない、発達障がい、ひきこもり、不登校、非行、精神保健、就労関係、学校関係、対人関係、家庭問題、児童福祉、健康問題、生活問題、外国に繋がる問題等を扱いました。また、増えている40代以上のひきこもり相談にも対応しました。神奈川県フリースペース等事業費補助金事業（継続8年目）

### カ 「アーモンド凸凹コミュニティアートプロジェクト」

さまざまな素材を準備して居場所でのアート活動に取り入れました。青少年とシニアのために、木材、紙、プラスチック、オイル、ビーズ、墨、布等を素材にクラフト制作やイラスト制作を活発に行いました。アーモンドホープセンターには、子どもたちの描いたイラスト作品を展示しました。イタリア在住のアーティスト（会員）の帰国が叶わない中、連携のあるイタリアウルビーノ美術専門学校「Scuola del libro」「本の学校」とアーティストユニット Grimme Twins と日本からは法人理事が参加してオンライン交流を行いました。

### (3) 多文化共生の推進等に関する事業

ア 「横浜に聴くプロジェクト」「英語カフェ」は休止中。

イ 「TCKs Green House」

TCKs=Third Culture Kids(サードカルチャーキッズ)とは、両親と異なる文化や母語の環境で育つ子どもです。グローバル化により多くの TCKs が日本の小中学校で学んでいます。外国につながる住民の生活課題を話し合い支えあうための集まりですが、法人の(6)コミュニティ活動である「書を楽しむ会」にも参加する等、グローバル化からの多様性・多文化理解をお互いに深め合う活動となっています。

### (4) 障がい者支援の推進等に関する事業

子どもと大人の「発達障がい」の相談が増えています。障がい理解を支えながら、凸凹な個性を活かす活動を進めています。今年度は「都筑リビングラボ」(横浜市政策局)のメンバーとして、北山田小学校の個別支援級での「傾聴と対話支援」を開始しました。

### (5) 高齢者支援の推進等に関する事業

ア 「横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業「アーモンドカフェ〜スープの時間〜」週2日の通所支援事業を、傾聴を学ぶ「ACN 傾聴ワーカー」が企画運営しています。

60代から90代の高齢者が、介護予防プログラム「おしゃべりカフェ、書で遊ぼう、脳トレ、フラ体操等」に参加、皮付き野菜から作るスープストックのスープランチを楽しんでいます。都筑区役所と東山田地域ケアプラザと都筑区社会福祉協議会との連携事業で、要支援の方の介護予防を主なる目的としています。

イ 「傾聴コミュニティ MY カフェ」

介護の悩み、不登校の悩み、仕事での悩み等を抱える人のために「ACN 傾聴ワーカー」が様々なお話を聴く活動で、傾聴によるこころの支援です。その後、法人の高齢者支援や不登校支援に繋がり、また専門機関で個別サポートを受けるケースがありました。

### (6) コミュニティ活動の推進等に関する事業

「アーモンド・ヨガ」「書を楽しむ会」「アーモンド・パソコン講習」は不登校の10代から独り暮らし80代の地域住民が参加するコミュニティ活動で、身体の健康と心の豊かさの増進と新しい生活様式で必須のスマホやパソコン運用能力の向上のために開催しました。外国籍の地域住民が「書を楽しむ会」に参加し交流する等で、「多文化交流・多世代交流の場」にもなっています。

### (7) 上記の事業に関連する教育・学習・研修・啓発・相談に関する事業

<外部組織より依頼された講演会・セミナー・研修の増加>で詳細に記載しました。

上記の外部から依頼を受けた「講演会」「傾聴研修会」「支援者養成研修」と共に、北山田アーモンドホープセンター拠点では、「傾聴研修会」「対話のことば実践(オープンダイアログ)」を学ぶワークショップを開催し、51日間で744名の参加がありました。

<2022（令和4）年度の行政委託事業・助成金・補助金・寄附金・寄贈品と会員数等>

<行政機関の委託事業>

・横浜市子ども青少年局  
都筑区寄り添い型生活支援事業  
12,448,210 円

・横浜市都筑区  
地域が支える子ども達の居場所づくり  
事業  
992,278 円

・横浜市都筑区  
通所支援事業  
3,418,420 円

・神奈川県教育委員会  
令和4年度子どもの居場所づくり推進  
事業  
354,000 円

<行政機関の補助金事業>

・生きづらさを抱えた子ども・青少年と  
家族のための寄り添い型相談事業～  
神奈川県フリースペース等事業費補助金  
750,000 円

・アーモンドカフェ「スープの時間」  
横浜市介護予防・生活支援サービス補助  
事業  
3,000,000 円

<助成金>

・神奈川県福祉子どもみらい局  
子ども食堂応援事業協力金  
120,000 円

・神奈川県福祉子どもみらい局  
ひきこもり等支援団体支援事業協力金  
120,000 円

・厚生労働省ひとり親家庭食品配布支援  
事業助成金  
500,000 円

・一般社団法人デロイトトーマツウェル  
ビーイング財団  
「子どもの教育分野奨学プロジェクト」  
750,100 円

<寄付金>

・寄附個人 ……  
個人寄付総額 3,041,067 円  
個人寄付者延べ人数 1,353 名

・寄附団体 ……  
都筑ワイズメン&ウィメンズクラブ  
10,000 円  
横浜労働者福祉協議会  
子ども食堂寄附金  
40,000 円  
国際ロータリークラブ  
100,000 円  
日本基督教団 田園江田教会  
5,000 円  
株式会社壺番屋  
教育寄贈品として 323,400 円

<会員数>

・正会員 25 名  
・賛助個人会員 97 名  
・賛助団体会員 2 団体  
都筑ワイズメン&ウィメンズクラブ  
(株)コタニ興業

<所属・参画ネットワーク>

全国子どもの貧困教育支援団体協議会  
横浜子ども支援協議会  
一般社団法人ラシク045

令和四(2022)年度 法人事業開催日数と受益者数

事業名	事業内容	開催日数	受益者延べ人数
子育て支援の推進等に関する事業	アーモンドフードパントリー(食品・食材提供)活動	71日	301名
	アーモンド子ども食堂	9日	190名
	厚生労働省「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業助成」事業	31日	107名
青少年の健やかな成長の推進等に関する事業	「フリースペース ともにあ・る・く」青少年支援	242日	322名
	「都筑区寄り添い型生活支援」委託事業	242日	974名
	「都筑区地域が支える子ども達の居場所づくり」委託事業	46日	137名
	「都筑区青少年支援事業における通所支援」委託事業	124日	193名
	「不登校相談会・親の集いと傾聴勉強」不登校ひきこもり支援事業	12日	35名
	「デロイト・公文・ACN奨学プロジェクト」学習支援事業	86日	107名
高齢者支援の推進等に関する事業	「スーパの時間」介護予防・日常生活支援補助金事業	92日	889名
	「傾聴コミュニティMYカフェ」	22日	56名
コミュニティ活動の推進等に関する事業	「アーモンド・パソコン講習」	12日	74名
	「アーモンド・ヨガ」	17日	53名
	「書を楽しむ会」	11日	58名
	「アーモンド凸凹コミュニティアートプロジェクト」	2日	19名
法人の事業に関連する教育・学習・研修・啓発・相談事業	「傾聴研修会」(北山田法人拠点平日)	23日	293名
	「対話のこぼれ実践セミナー」(北山田法人拠点日曜日)	5日	56名
	「支援者養成研修」「講演会」(外部組織より依頼)	14日	290名
	「生きづらさを抱えた子ども・青少年と家族のための相談事業」	212日	357名
	「連携組織対話ミーティング」'ACN Dialogical Meetings in Social Networks'	5日	78名
	「デロイト・公文・ACN奨学プロジェクト」事前研修・フォローアップ研修	4日	27名
多文化共生の推進等に関する事業	「英語カフェ」「横浜に聴くプロジェクト」(休止中)	0日	0名
	「TCKs Green House」(休止中)	0日	0名
障がい者支援の推進等に関する事業	「障がいと傾聴セミナー」(休止中)	0日	0名

受益者数 4,616名